

那須塩原市議会 「敬清会」 行政視察報告書



視察期間：令和２年１月２７日（月）～１月２９日（水）

- I 視察日：１月２７日（月）
視察地：福岡県嘉麻市
内 容：新庁舎建設について

- II 視察日：１月２８日（火）
視察地：福岡県田川市
内 容：「いいかねP a l e t t e」の取組について
視察地：福岡県うきは市
内 容：うきはテロワールの取組について

- III 視察日：１月２９日（水）
視察地：福岡県うきは市
内 容：道の駅うきはの取組について

参加議員： 相馬 義一 玉野 宏 平山 武

福岡県嘉麻市

・「新庁舎建設」について

視察地 嘉麻市役所

視察日 令和 2 年 1 月 27 日

報告者 相馬 義一

福岡県の中央に位置する嘉麻市は、馬見連峰と戸谷ヶ岳・熊ヶ畑山等の山林とそこを源とする遠賀川を始めとする河川から形成する流域平野で面積 135.18 ㎢・人口 38,367 人(h30)のまちです。

平成 18 年 3 月 17 日、旧山田市・稲築町・碓井町・嘉穂町による 1 市 3 町で合併し誕生した市ですが、合併当初 47,086 人の人口が 2019 年度には 38,116 人、人口減少率 19.05%。また高齢化率も 27.2%から 38.3%になり、特に交通の不便な地域の人口減少と高齢化が進んでいます。

このような中、総合的なまちづくりや行政サービスの維持・向上、行財政運営の効率化と基盤強化を図る為に合併を選択しましたが、合併協議で新庁舎については当分の間、旧碓井庁舎を本庁とし 3 つの旧庁舎は総合支所とする分庁方式をとり、財政状況等を踏まえて新庁舎建設の是非と位置を含め、新市において検討すると決定した。その後、分庁方式に伴う非効率的な行政運営に対する問題の指摘や各庁舎の老朽化・耐震性の問題、組織のスリム化等から本庁機能を集約できる新庁舎建設に関する考え方を整理するとともに、事業の実施に有利な財源、合併特例債が活用できる期限の完了を目指した。

しかし当初、建設場所の位置については、市全体の真ん中（碓井地区）や人口の多いところ（稲築地区）が良い等、意見が対立した。初代市長は碓井庁舎を改築し、新市の本庁舎とする考えで進めていた。しかし、この市長案に対し平成 24 年 12 月定例会において、一部の議員が稲築地区へ変更する条例改正案を提出、議会が可決した。市長側は「寝耳に水」と反発。ここに碓井庁舎の増改築案と移転新築案との市民を巻き込んだ議論になった。

市は、コンサルタント会社に庁舎に関し、それらの 2 択に経費調査を委託した。結果は、国の交付金等を除く今後 30 年間の実質負担額において、碓井庁舎増改築案が 49 億円、稲築地区新築案が 36 億円と安価であった。また、仮定条件を設定し、20 年間での試算でも本庁一本化と現状の分庁方式での比較では、庁舎整備に係わる事業費で 68 億 2 千万円、維持管理費・人件費で 80 億 3 千万円の市の負担を抑制できる結果が出た。市長側の地理的条件等を理由に市の中央部と議会側の稲築地区への移転新築との対立が益々増加した。市長側は市民説明会を開催し、市民に理解を求めたが、平成 26 年 4 月の選挙で初代市長と市議会議員からの立候補者との間で戦った結果、市議会議員だった候補者が当選。現市長になった。さらに庁舎に関する施政方針を表明した。

平成 26 年 10 月 庁舎建設設置本部会議を設置し、全庁的に取り組みを始める。

平成 27 年 1 月 市民 18 歳以上から無作為に 3,000 人のアンケート実施。

平成 27 年 5 月 市民説明会を 4 回開催

平成 27 年 8 月 新庁舎施設整備等審査会の設置（12 人）

平成 28 年 2 月 当審議会より答申を受ける。

平成 28 年 3 月 庁舎建設事業費予算案を議決。新庁舎建設基本計画の完成

このような経緯の中、新庁舎基本計画は

- ・ 7つの方針を掲げ、より良い住民サービスの提供、効率的な行政運営を目指す。
- ・ 新庁舎の建設地は稲築地区の「稲築地区多目的運動広場」に決定。
- ・ 規模はできるだけコンパクトな庁舎、延べ床面積 9,000 m²以内を基本とした。
- ・ 概算事業費は 40 億円（合併特例債 377,500 万円、一般財源 22,500 万円）
- ・ スケジュールは h 27 基本計画、h 28・29 設計、h 30・31 建設工事、r 2.3 月竣工

特徴として、

- ・ 地上 5 階建て基礎免震構造 RC 造、一部 S 造。延べ床面積 8,651 m²。
- ・ 柱と梁で構成した正方形グリッドのアウトフレーム。
- ・ 2 重床による床吹き出し空調システム。
- ・ 72 時間確保できるバックアップ機能。
- ・ 5 階中央に議場（多目的利用可能なフラット床）

議場は定例会 4 回だけの使用のため、市民より使用していない時は他に使用できないかとの声があり、議場をフラットにし可動式の机・椅子を配置し多目的ホールとして使用可能とした。（千代田区議会を視察）

新庁舎建設については、合併協議で決定しなかったため、市・議会・市民を巻き込んで住民投票の是非や首長選で、町を 2 分する戦いが繰り広げられた。最後は担当者も変わり市民運動に疲れが見えたようであった。改めて市長、行政のリーダーシップが必要であると感じた。



福岡県田川市

・「いいかね Palette の取り組み」について

視察地 いいかね Palette

視察日 令和 2 年 1 月 28 日

報告者 平山 武

田川市は福岡県の中央部に位置する人口 46,550 人で、筑豊地区を構成する自治体の一つで、飯塚市、直方市と並んで筑豊三都に挙げられる。田川地区の中心都市である一方、北九州都市圏にも属している炭坑節発祥の地としても知られ、筑豊最大の炭都であった歴史を生かしたまちづくりが行われている。

今回は那須塩原市でも取り組んでいる廃校利活用について特に田川市で 140 年の歴史に幕を下ろし廃校となった旧猪位金小学校を利活用した複合施設の取組について視察した。

田川市では民間事業者への委託をすとの方針を打ち出して、2017 年「プロポーザル方式」での公募を実施し「株式会社 BOOK」が落札、施設名を『いいかね pallet』とし現在に至っている。

特異な点は指定管理者契約が一般的であるが、田川市は運営権の譲渡契約であること。当初資金については、地域活性化交付金 6,500 万円(施設改修資金)と自社で株主を募り銀行借入れした 3,000 万円(運営資金)で代表 1 名スタッフ 12 名でスタートした。運営は決して楽なものではなかった。1 年くらいで人員削減を余儀なくされた。

しかしながら、代表が地元出身で地元の活性化に貢献したいとの強い意志があったため、現在では少数精鋭で利益も上がり順調な運営がなされていました。運営費は利用料金で賄っている。

利用料金 宿泊(3,000 円～3,500 円)体育館(1,000 円/h)運動場(1,000 円/h)
自由教室(1,000 円/h)BBQ(2,500 円／1 区画)リハーサルスタジオ(1,000 円／1h：2 名まで)リハーサルスタジオ(1,500 円／1h：3 名以上)コントロールルーム(3,000 円／1h)エンジニアオプション(3,000 円／1h)ミュージックラボ(500 円／1h：初回のみ別途講習料 2,500 円)

営業時間 12：00～21：00 不定休

最近では得意とする音楽のノウハウを活かして『商店街のテーマソングをつくってこないか』『イベントで流す映像をつくってこないか』『集客にインターネットを活用したいがスマホ、パソコンが苦手』『スマホで撮影した動画を編集したい』『校歌や社歌をつくりたいが作曲してくれる人いないか』等新たな仕事が増えている。市の予算に頼らず自立している。正に官から民への模範となる事例であった。

本市においての廃校や市施設の有効利用に大いに参考になる視察であった。



福岡県うきは市

・「うきはテロワールの取り組み」について

視察地 うきは市役所

視察日 令和2年1月28日

玉野 宏

うきは市議会事務局長 石井良忠氏、うきはブランド推進課 瀧内宏治氏、住環境建設課 村岡薫氏より説明を受けた。うきは市は、平成17年3月20日浮葉町と吉井町の2町で合併しうきは市となった。人口29,572人（平成31年3月）面積117.46km²福岡県南東部に位置する。地形は南に耳納連山、北に九州一の河川筑後川に挟まれ、温泉地を二ヶ所、耳納連山の山間部平坦部は肥沃な水田地帯、山麓部は、果樹地帯が形成されている。

扇状地と伏流水の河川が重なる複合扇状地である農山地であるが、他地域に対抗できるネームバリューがあるのか、つくれるか、周辺地域は同じくフルーツの産地であるのでフルーツ王国と名乗るのもという中、原点に帰り何故フルーツが多種収穫できる地なのか九州大学に地質調査を依頼した。

吉井よい井戸と呼ばれた、地下水の豊かさは上水道普及率9%で地下水を今日まで利用し続けてきた。気候は、フランス・アルザス地方に似ていることから、うきはテロワールと名付け移住、安住にも繋げることにした。春先のイチゴから、桃、ブルーベリー、ブドウ、イチジク、柿、キウイなど多品目で、ブドウは49品種、桃37品種、柿16品種、梨13品種と種類も豊富である。テロワールとは生産地の地理・地勢・気候の特徴を指すフランス語であり高木典雄市長のリーダーシップにより、うきはテロワールとした、これにより農業に適した環境であることはもちろん、昨今の地球温暖化による被害や、病虫害のリスク軽減の可能性など、農業のポテンシャルの高さを追及してゆきたい。

市のマークは、伏流水が豊かな地であることを表すデザインとしたうきはテロワールの7大自然要素は、①地形「耳納連山と扇状地」…水はけと保水性を両立した農業に優しい地形 ②気温「絶妙な温度バランス」…逆転層と呼ばれる気象現象による絶妙な温度バランス ③土壌「作物が健全に育つ土地」…扇状地は排水が良好で、端部の根まで呼吸が容易 ④風「心地よい山部のそよ風」…耳納連山北側は最大風速が小さく微風地帯 ⑤水「豊富なうきはの恵水（めぐみ）」…ミネラル分を含んだ美味しい水 ⑥雨「瑠璃色の雨による水分補給」…適度な夕立で、果樹の水分補給と暑さの調整可能⑦地理「筑紫の玄関」…筑後川が筑紫平野に流れ込む玄関口。都市圏に近い。

今後の課題として、農業に適した価値あるうきはの地域資源について学術的面での理解促進、テロワールの名がまだまだ知られていないため、教育現場との連携、学習効果を高めること郷土への愛着、誇りを高めたいと。



福岡県うきは市

・「道の駅うきはの取り組み」について

視察地 道の駅うきは

視察日 令和2年1月29日

玉野 宏

道の駅うきはは営業推進部部長 今村研一氏、うきはブランド推進課課長 樋口秀吉氏、議会事務局記録係長 宮崎恵氏より説明を受ける。

前日にうきはテロワールの取組みの概要を伺い、実践販売の拠点道の駅うきはは平成12年に竣工したが、当時は建設反対の声があった。立地場所にダムからの土を集積したこと、古墳が多いこと等であった。地元杣を使うこと、地元山間部に残る住居群に似せたデザインとすることで地元住民の説得ができた。建設当時の使用々途と20年後の用途は変化しました。年間売上4億円でしたが10億円を目指している。

現在は農協に出荷するより良いと売上、来客のピークは8月です。当時は、日田、由布院、別府、大分へ向かう途中の道の駅であったが、今日うきは道の駅を目的に来客されている福岡市からの来客が多くなっており、建設当時の駐車場は足りず、第3駐車場まで用意している。

営業時間は、9時～6時であるが出荷者の店頭出しの時間を見越して9時前にオープンしている。野菜、果物は種類毎にコーナー分けしており、出荷者はくじ引きでコーナーが決められている。生産者との全体会議は月1回夜7時から行っている。うきはの里（株）は、資本金1億円でうきは市が70%残は、生産者組合とうきはの里である。社長は銀行出身者で営業市場開拓を怠りなく行っている。市外への出前販売PRに努めている。

今日道の駅の役割は、観光情報の受発信、中山間地の振興促進、農業体験等の実践、うきは地域の農業、商業の活性化、後継者育成、高齢者女性等の採用により地域の活性化、生きがいに貢献する等である。

道の駅うきはは、九州じゃらん、道の駅ランキングで2016年より4年連続1位に選ばれている。うきはの里（株）に営業推進部を設置し、外貨を稼ぐ地域づくり」と創業支援による仕事づくりを進めている。このために「外販事業」、「ギフト商品開発事業」、「ECサイト事業」、「DMO事業」の4事業を実施している。これらを基に旅行商品の企画、開発、販売等の観光地経営を行い、総合的にうきは地域ブランディングにより地域として稼ぐ力を高めることを目指していますと。

